

学校だより



菜の花

川崎市立長沢小学校

令和7年1月14日

1月号

人生100年時代

校長 中西 憲子



長沢小 HP
(学年だより)

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。令和7年は巳年です。へびは脱皮を繰り返すことから変化、進化の象徴と言われます。「50周年を迎える長沢小学校も進化を遂げる一年にしていこう」と新年の朝会で話しました。

2025年、21世紀も4分の1が過ぎようとしています。2016年に発売された「LIFE SHIFT」の著者であるリンダ・グラットン氏は「2007年に日本で生まれた子どもは107歳まで生きる確率が50%ある」と言っています。「人生100年時代」と言われる中で私たちは、100年を生きる子どもたちの人生を見据えて子ども時代の過ごし方を考えていく必要があります。

まず、健康に過ごし、「健康寿命」を伸ばしていくための知識と習慣を身に付けさせることがとても大切です。特に歯の健康です。学校でも保健だよりで情報発信をしたり歯科校医さんのご指導を受ける機会をつくったりと工夫しているところです。「8020運動」といわれていますが、年齢があがってからではできないことがたくさんあります。子どものときこそ歯の健康に対する関心を高めていきたいです。また、食に対する意識も大切にしたいです。一生を健康的に過ごすためには、子どものときから「いかに食が大切か」という考え方を育むことが重要です。子ども時代には、食べることが楽しいと思うようになることや食の体験を広げて欲しいです。食育は長い人生の中でそれぞれのライフステージに応じた食生活を考えるための土台であると捉え、教育活動の中でも力を入れていきたいところです。

AIのような新しい機能と適切に付き合っていくことも必要です。先日、テレビで「困ったことがあったらAIに相談する」「友達に聞きにくいことをAIにならたずねやすいし平均的な回答が得られる」と話す高校生の発言を聞き、衝撃を受けました。一方で、これからの社会を生きる子どもたちには、AIの機能的な一面も理解しながら共存できる力をつけていくことが求められているとも感じました。AIに質問すればある程度問題は解決できるようになるのかもしれませんが、その中でも情報の正確性や信頼性には注意が必要です。AIは機械です。機械だからこそ正しいかどうかは人間が判断する必要があります。AIの提示する情報には偏りやバイアスのある可能性があることを忘れないことが肝心です。「自分の頭で考える」ことが何より大切なことを忘れずに、「自分の頭で考える」習慣をつけさせていきたいです。

そして、子どもたちに一番身に付けていって欲しいこと、それは、「学び続けていく姿勢」です。長い人生をより豊かに過ごすためには、生涯にわたって主体的に学び続けることが重要です。大人には「学び直し」や「生涯学習」が求められますが、その基盤をつくるのは、子どもの時代の学びです。基礎・基本となる学力はもちろん大切ですが、そこから少し離れて、興味・関心、好きなこと、やりたいことを広げていく学び、誰かに与えられるのではなく自分の好きなことを探究していく力という視点も大切にしたいです。何より、「学ぶことは楽しい」と「学び」そのものを楽しむことを体感して欲しいです。退屈なことに主体的に取り組むことはできません。お子さんの好きなこと、やりたいことは何でしょうか。ときには、役に立つか立たないかという観点から離れてお子さんを見守り、応援することが必要かもしれません。将来、人生を振り返ったとき、あのときのことが役に立った、あるいは、意外にもあのときのことが人生に意味をもたらしたというように、役に立ったかどうかは過去を振り返ったときに初めて分かるものだからです。

子どもたちの多くは、22世紀を迎えることでしょう。自分たちの生きた時代を平和な世界であった、豊かな人生であったと考えることができるようになって欲しいと願うばかりです。私たち身近な大人自身が健康的に過ごすこと、自分の頭で考えること、そして学びそのものを楽しむことを体現していくことができれば、その背中を見ている子どもたちにきっとよい影響を及ぼすはずで、私も自分の豊かな人生を目指して一日一日を大切に過ごしていく一年にしていきたいです。